

歌は私の人生

声楽家 **鵜飼典子**さん

女声アンサンブルグループ「ル・シャンテ」の一員として、また、ボイストレーニング講師として、さらに、地域の混成合唱団「碧水」の指導者として活躍されている鵜飼さん。20年以上、声の世界に生き続けるプロフェッショナルにお話を伺いました。

■ステージで歌うときに心がけていることは？

歌を聞いてもらうお客さまに、共感していただき、「心を動かされた」と言ってもらえるように歌っています。

そのためには、歌詞をしっかりと発音したり、スムーズな発声でメロディーを美しく歌ったりという技術的な問題もありますが、そこはプロなら出来て当たり前。

歌の持つメッセージや、歌詞が表現する世界が伝わるように歌うということを心がけています。

■鵜飼さんにとって歌とは？

ありきたりですが、歌は私の人生そのものです。

子どもを育て、成長する姿を見守ること。年をとっていく両親の背中を見ること。そういったいろいろな経験をしていくことが、歌に深みを与えたいと思います。

普段の生活の中で感じることを全てが、自分の表現の引き出しにつながっています。

■これからの目標は？

一番の目標は歌い続けることです。

実は、「歌い続ける」には結構な労力が必要です。声は年齢とともに衰えるので、レベルを保つためには、若いときよりも一層のトレーニングをしなければなりません。そういう意味では、歌うことはまるでスポーツのようです。

これから先も努力を重ねて、70歳を超えても歌える自分でありたいですね。



元気な まちがど



1 news 「山内ふるさと絵図」を創ろう

地域の記憶を絵に表す

ふるさと絵図作成研修会が8月27日、ふるさと生きがいセンター「六友館」で行われました。

「ふるさと絵図」は、集落や地域を対象にして、そこに生きる人々の心に息づく思いを集めて描く、地域の「生活ものがたり絵」です。

この日集まった約40人の参加者は、近江八幡市安土老蘇地区まちづくり協議会の方から絵図を完成させたプロセスを学びました。その後、風呂を沸かす薪の燃える匂い、石臼できなこを挽く音など、五感を伴う昔の記憶を書き出したカードをもとに山内地区の昔の生活を振り返り、人々の記憶を地域の宝として残す絵図創りがスタートしました。



▲山内地区の昔について話し合う参加者

2 news

東海道浪漫歩行 2015

歴史を感じながら歩く

東海道浪漫歩行が9月5日行われ、約2700人の参加者が晴天の東海道を歩きました。

このイベントは、石部宿から土山宿までの約30kmと、今年新たに設けられた水口宿から土山宿までの約15kmの道のりを、東海道の町並みや歴史を体感しながら歩くものです。

運営に携わったスタッフの、「小さな子も参加できればと思い、15kmの部を作りました」という言葉があり、完歩者の中にはたくさん親子連れの笑顔がありました。

▼水口宿でスタート前の記念撮影



3 news

全国大会入賞で教育長を表敬訪問

男子ソフトボール投げ 2位入賞

第31回全国小学校陸上競技交流大会
男子ソフトボール投げ
第2位 記録78・44m

陸上競技全国大会で2位入賞を果たした伴合小学校6年の坂玲哉さんが9月3日、教育長を表敬訪問しました。

坂さんのこれまでの自己記録は、7月に行われた県大会で優勝を決めた66・64mでしたが、「全国大会前日の練習では70mを出せていたので自信がありました」と、笑顔で当時の心境を語りました。



▶教育長から記念品贈呈を受ける坂さん

4 news 瀬古の流星

夜空に描く放物線

9月12日、甲南町竜法師で秋の風物詩「瀬古の流星」が打ち上げられました。

瀬古の流星は、竹とヨシで作られた地域に古くから伝わる手製花火です。忍者が合図のために打ち上げた狼煙と伝えられ、地域の住民で作る保存会により大切に守り継がれています。

今年も準備された120本の流星が秋の夜空に鮮やかな放物線を描き、集まった見物客を魅了しました。



▲秋の夜空を横切る流星